

弘大の第3期中期目標期間実績評価

「計画以上の進捗状況」

19年度終了時、2大項目

文部科学省の国立大学法人評価委員会は30日、全国の国立大など90法人の第3期中期目標期間（2016～21年度）の4年目（19年度）終了時の業務実績評価

を公表した。各法人が定める計画に対して、達成に向けた進捗状況を「教育研究」の4大項目と業務運営や財務内容等に関する4点をそれぞれ6段階で評価するもので、弘前大学（福田真作学長）は2大項目と2点において、上から2番目の「計画以上の進捗状況にある」との評価を受けた。

計画以上の進捗状況と評価されたのは「研究に関する目標」と「社会連携及び地域に関する目標」の2大項目と、「業務運営の改

善及び効率化」「財務内容の改善」の2点。岩木健康増進プロジェクト健診の実績のほか、地域志向科目を多数開設して学生の県内就職希望率を大幅に上げたことなどが評価された。一方、同大が受けた評価の中で最も低いのは法令順守・施設整備等に関する部分で、上から4番目の評価「おおむね順調に進んでいる」だった。理由は、16年度に指摘を受けた毒劇物等の不適切な管理を、引き続き再発防止に向けて積極的な取り組みを求めるとされたため。

同大の吉澤篤理事は「主要な項目で計画以上の進捗だと、そこそこ高い評価を

受けたと喜んでいる。（来年度に始まる）第4期中期目標期間に向けては、第3期で構築した人材育成機能、得られた研究成果を用いて新商品等の開発や青森ならではのブランド化を促進し、地域産業界の発展に貢献したい。地域の健康増進にも貢献し、地域文化の発展をけん引できる大学を目指したい」と述べた。

（石田紅子）